



①式辞を述べる富岡校長  
 ②式に出席した地域住民や卒業生  
 ③記念碑除幕式で幕を引く川添町長ら関係者

崎英治さんが「閉校は難しい決断だった。122年の歴史は、これまでの先輩がたの努力のたまもの。母校が無くなる寂しさはあるものの悲しみとは捉えず、子どもたちが明るい未来に向かって、より一層輝くことを期待します」とあいさつ。児童代表の柘原君と富岡校長から村田研史教育長へ校旗が返納され、地域住民らも一緒になって校歌を斉唱しました。

式後の記念碑除幕式では、川添町長や児童代表らの手で紅白の幕が引かれると、校歌と「だんだんなあ本浦小学校」の文字が刻まれた記念碑が披露されました。

午後から開催された思い出を語る会には、平成24年に児童らと力を合わせて地域の歌「だんだん！諸浦島」を作った、シンガーソングライターの野田かつひこさんらも駆けつけ、児童や同校を卒業した鷹巣中学校生徒徒らと一緒に歌を披露しました。

式に出席した第31代校長の西中間新一さんは「私自身も娘2人が本校の卒業生。閉校となるのは、非常に残念だが、本浦小学校で過ごした生活にはものすごく感謝している」と話しました。



←野田さん（前列左端）と合唱する児童生徒